

A B r i e f N o t e N o . 1 8 2

発行日：2007.7.6

発行人：Matsuo Masayasu

北海道バイクツーリング

横浜市 吉田 博至

去る6月21日、かねてよりの夢に描いていた北海道バイクツーリングを決行した。

45年ぶりのバイクへのチャレンジであり、家族の反対を押し切って今年2月にハーレーダビットソンを購入、その後、約1000Km走行して、長期間の空白を埋めた。しかし、重量260Kgある巨体は昔の250CCの二輪とは異質であり、低速での取り回しには特に神経を使う。

(1) いざ、大洗港へ

北海道に渡るにはコースは幾つかあるが、自宅から最も近い大洗港から苫小牧に向かうフェリーを利用することとして、北海道の週間天気予報により、出発日を6月21日にした。

出航が18時30分なので当日は13時に家を出て、首都高速横浜線から、東関東自動車道を経由、潮来ICで降りて国道51号線を北上、大洗港に到着したのが16時過ぎ、乗船手続きを済ませて休息。



ハーレーダビットソンで！

(2) 快適なフェリー



大洗港で乗船を待つ

17時、いよいよ乗船開始、自分が運転して乗船口の鉄板を駆け上がり、船内の最下階に降りてバイクはロープで固定された。客室はガジュアルルームで大部屋ではなく、2段ベッドの下段に落ち着いた。客が少なく上段は空いており、20時間の船旅も快適であった。

食事は、夕食はバイキング、朝食、昼食はセットメニュー、夜と朝には映画上映があり、図書、船内TVがあるので、あっという間に時間が過ぎ、翌日13時30分に苫小牧港に到着した。

(3) 予定を変えて支笏湖から羊蹄山へ

下船後、道東に向かう予定であったが、船内の天気予報で道東は雷雨の予報だったので急遽予定を変更して、支笏湖から、ニセコ方面に向かう事とした。

支笏湖へ向かう道路は、森林の中を真っ直ぐに伸びる道路、これぞ北海道と、気持ちよく走行し、あっという間に支笏湖モラップキャンプ場に着いた。昔、学生時代にキャンプした場所である。時間が早かったので、さらに羊蹄山に向けて走行、羊蹄山ろくにある名水噴出し近くのキャンプ場に宿泊することとした。直ぐ近くに温泉があり、ちなみにキャンプ場使用料500円。他のキャンプ組が1つ、ガラガラであった。夕食は近くのコンビニで調達、朝は4時ごろから、ウグイス、カッコウが鳴きだし、実に爽快。名水でコーヒーを沸かして賞味、これぞワイルドライフということでしょうか。



素晴らしい姿の羊蹄山

(4) ニセコ、倶知安から函館へ、戸井キャンプ場に連泊

朝、天気予報をラジオで聞くと道南のみ晴れているというので、最近オーストラリアからのスキー客が激増しているというニセコ、倶知安を回ったあと、函館に向かう事とした。

函館ではホテルに一泊しようと2, 3 当ったがいずれも観光客などで満室、仕方なく東へ30 Km ほど走って戸井キャンプ場に泊まる事とした。やはり温泉が隣接しており、整備が行き届いていた。仲間はファミリーキャンプが一張、静かな場所で気に入ったため、連泊して休息する事とした。このキャンプ場は最初、戸井町の町営であったのが函館市に合併されたため、函館市営に変わり、その後民営化されて、建設会社の社長夫人が経営しているという。管理人が気さくな人で居心地が良く、食料の買出しをすれば何泊しても飽きない場所である。

朝になると、住み着いているカモメの夫婦がテントに近づいてきてバタバタと音を立てる。多分、起きろということなのだろう。

戸井から少し先の恵山を過ぎると、海岸に面した露天風呂があり、満潮時には波で飲み込まれ、干潮時には快適な温泉になるというので出かけてみた。入ってみると海面すれすれ、気持ちのいい岩風呂である。季節外れなのか、全く人がいない。堪能してキャンプに戻った。



落ち着ける戸井キャンプ場

(5) 長万部(オシャマンベ)から苫小牧へ

帰路は東周りで駒ガ岳の北の町「森」に出て、長万部で昼食、洞爺湖に向かったが、

海岸線を走るうち、洞爺湖方面が黒い雲に覆われて雨模様のため諦めた。仕方なく室蘭方面に向かったが、次第に風も強くなり、空模様も怪しくなってきたため、予定を繰り上げて帰ることにした。苫小牧18時45分出航のフェリーにかろうじて間に合った。



怪しい空模様ながら、素晴らしい港の眺め

以上